

芭蕉元祿事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成三十年六月度 入選句（投稿総数二千四百九十九句・一般投句数六百二十二句）

特選

そり返り泣く児や風の鯉のぼり

岐阜市

伊藤 瑞実

この句の素晴らしいところは、反り返つて泣く子と、風の鯉のぼりという取り合わせですのよるしです。

風の鯉のぼりが反り返るように、反り返つて意志を通さんとする頑是ない子の姿がリアルに描かれています。

このごろは、家庭で上げることがすっかり減つて観光的に固めて飾るのが主流で、男の子が生れたぞと言う誇りの形は失われたように思います。

草笛の草の震えが口びるに

安八郡安八町

棚橋

良子

草笛は草の葉を唇に当てて笛のように吹き鳴らし楽しむものですが、このごろの子知らない子が多いようです。いろいろの草の葉を、いろいろな方法で吹いたことのある世代の人たちには、なつかしい郷愁の響きを醸し出す代物です。

草笛の草の震えが口びるにの感触が草笛を吹くときの醍醐味、子たちに教えてあげたいものです。

吊橋の一步に初夏の山揺らぐ

大垣市

坪井

克枝

一步に揺らぐ がいいですね。

吊橋の下は言うまでもなく、目も眩むような渓谷です。高所恐怖症でなくても足の震るえる深さ、初夏の山揺らぐですから、萬緑の山、老鶯や時鳥などの声が聞こえてくる絶景、恐いけれど爽快、誰かがヤッホーと大きな声を出して呼んでいるような雰囲気があります。

秀逸

真贋は人の世のことてんとむし

愛知県名古屋市

舘野

茂子

光まとい田植する子の顔に泥

大垣市

大杉

すみゑ

草笛の鳴った鳴らぬと土手の上

大垣市

福永

峰子

蝌蚪の群いつかはなれて一人旅

岩田

紀与古

柿若葉遺影の夫のうすみどり

不破郡垂井町

竹嶋

富美子

子の植えし苗の曲がり直しけり

安八郡安八町

渡辺

千代美

咲き急ぎ散り急ぎして四月尽

岐阜市

小湊

順子

利き酒のやうに新茶を味わえり

大垣市

吉田

てるみ

ふらここを泣く弟にゆずる兄

大垣市

鶴田

信子

万緑や華巖の滝は白き劍

福島県福島市

佐藤

巧海

入選

新学朧背の順に行く通学路	本巢市	土川	哲生
山滴る山の高さに交す杯	千葉県印旛郡	寺嶋	和江
母の日の睫毛の長き子どもの絵	不破郡垂井町	児玉	信子
開襟の眩しき乙女更衣	養老郡養老町	田中	紫香
次の子も男の子てふ鯉幟	不破郡垂井町	中嶋	笑子
伊吹より元氣をもらう鯉幟	大垣市	佐久間	ひろみ
麿線のレールの錆や草茂る	不破郡垂井町	富田	実郎
人波をゆらし近づく祭笛	愛知県稲沢市	佐藤	貞子
広い田を田植機だけの独壇場	大垣市	山田	佐代子
愛敬の白衣の女医や百合の花	大垣市	多和田	一徳

入選

明易し介護日誌の一頁	大垣市	佐藤	すみ子
市制百年固き絆の夏祭り	大垣市	中村	有紀
花は葉につり上げられし盃舟	大垣市	平野	きぬよ
春疾風風向計は全速力	大垣市	平野	ヒサエ
南風吹くメタセコイアの並木道	大垣市	永島	みすゑ
孫とタッチちから無くともものどけしや	大垣市	藤岡	啓子
人の世の舞台を飾る花吹雪	大垣市	澤井	国造
頑なに守る生き方ねじれ花	兵庫県神戸市	岸下	庄二
笑わせて始まる法話梅雨に入る	三重県四日市市	後藤	允孝
里山を黄金に染めて椎の花	大垣市	高石	政明

選者吟

蜘蛛の囀を払ふ知らざること多く

青志